



2024年7月11日

各 位

会 社 名 株式会社日本色材工業研究所  
代表者名 代表取締役社長 奥村 華代  
(コード:4920 スタンダード市場)  
問 合 せ 先 常務取締役企画・経理部長 霜田 正樹  
(TEL. 03-3456-0561)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、2024年4月11日に公表しました2025年2月期(2024年3月1日~2025年2月28日)の第2四半期累計期間及び通期の業績予想を、下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 連結業績予想の修正について

(1) 2025年2月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(2024年3月1日~2024年8月31日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	8,683	267	210	127	60.62
今回修正予想(B)	9,301	430	376	228	109.04
増減額(B-A)	617	162	165	101	
増減率(%)	7.1	60.7	78.6	79.9	
(ご参考)前年同期実績 (2024年2月期第2四半期)	7,355	286	272	217	103.62

(2) 2025年2月期通期連結業績予想数値の修正(2024年3月1日~2025年2月28日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	16,964	606	490	355	169.57
今回修正予想(B)	17,354	711	600	405	193.48
増減額(B-A)	390	105	110	50	
増減率(%)	2.3	17.4	22.6	14.1	
(ご参考)前期実績 (2024年2月期)	15,050	441	407	398	189.96

## 2. 個別業績予想の修正について

(1) 2025年2月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(2024年3月1日~2024年8月31日)

	売上高	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	6,043	169	118	56.75
今回修正予想(B)	6,797	457	310	148.05
増減額(B-A)	754	288	191	
増減率(%)	12.5	170.0	160.9	

(2) 2025年2月期通期個別業績予想数値の修正(2024年3月1日~2025年2月28日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	11,642	260	186	88.80
今回修正予想(B)	12,494	537	366	174.89
増減額(B-A)	852	277	180	
増減率(%)	7.3	106.6	96.9	
(ご参考)前期実績 (2024年2月期)	10,261	261	△89	△42.71

## 3. 業績予想の修正の理由

2025年2月期の第2四半期累計期間におきまして、化粧品業界ではメイクアップ製品を中心に需要は改善の傾向が続いております。新型コロナウイルス禍で低調だった新製品発売も大きく回復、特に前連結会計年度にマスク着用規制が解消したことから、口紅等の新製品発売が大きく回復して需要喚起に貢献しているものと思われまます。

### (個別業績)

当社におきましても、第2四半期累計期間は、国内・海外の化粧品メーカーからの受注が回復・増加している中で、クリーン・ビューティー等の当社処方が評価されて新製品の大口受注を獲得できた影響も大きく、売上高は前回発表予想値を上回る見込みです。また、利益面では、引き続きつくば工場第3期拡張等による諸費用の高止まりや、インフレによる各種費用増や採用難による工数不足をまかなうための外注加工費増を通じたコストアップはあるものの、大口受注獲得の影響もあって生産設備の稼働が向上、経常利益や四半期純利益は前回発表予想値を大きく上回る見込みです。

2025年2月期の通期個別業績予想につきましては、第3・第4四半期の売上高は、第2四半期累計期間の大口受注が一服して、前連結会計年度からの新製品の受注の波も沈静化していくことが予想されることから、第2四半期累計期間を下回る見込みです。それに伴い、第3・第4四半期の利益も第2四半期累計期間を下回る見込みですが、通期の個別業績につきましては、第2四半期累計期間の業績嵩上げにより前回発表予想値を上回る見込みです。

### (連結業績)

連結業績の第2四半期累計期間におきまして、フランス連結子会社である THEPENIER PHARMA & COSMETICS S.A.S. 及び Nippon Shikizai France S.A.S. は、医薬品及び化粧品の受注において前連結会計年度の回復ペースが鈍化してユーロ建ての売上高が減収、加えて人件費や諸物価の高騰もあって両社合計として利益は予想を下回って赤字となる見込みです。連結業績では、フランス連結子会社の赤字を個別業績の黒字で打ち返し、売上高・利益共に前回発表予想値を上回る見込みです。

2025年2月期の通期連結業績予想につきましては、フランス連結子会社は医薬品及び化粧品の受注の回復ペースが鈍化している影響で通期業績も予想を下回る見込みですが、通期の個別業績が予想を上回りフランス連結子会社の下振れをまかなう見込みであることから、通期の連結業績も売上高・利益共に前回発表予想値を上回る見込みです。

(注) 上記予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後発生する様々な要因により当該予想値と異なる結果となる可能性があります。

以上